

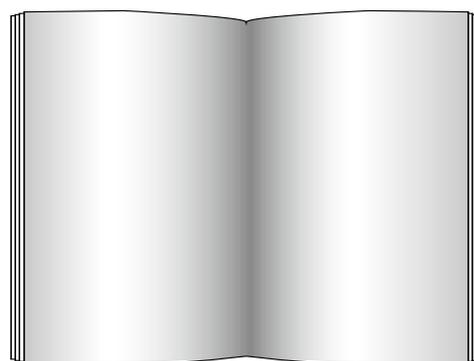
令和4年度 読書感想文コンクール 入賞者紹介～小学生～

		最優秀賞	優秀賞	佳作
小学生	1年	実施していません		
	2年	高 畠 虹 輝 「ふしぎなかさやさん」 を読んで	井 川 乃 珂 「すずめのくつした」 を読んで	鈴 木 杏 「とびばことひるやすみ」 を読んで
	3年	谷 口 まなみ 「体育がある」 を読んで	富 永 鼓太郎 「先生、感想文書けません」 を読んで	庄 子 拓 臣 ヤナギの精はふしぎだな
	4年	佐 藤 陸 「銀河鉄道の夜」 を読んで	加 藤 悠 真 「先生、しゅくだいわすれまし た」を読んで	會 田 真 央 「ゆりの木荘の子どもたち」 を読んで
	5年	石 川 源 太 オーストラリアに行くために	樋 口 碧 「二日月」 を読んで	東 出 愛 梨 トイストーリー4
	6年	高 畠 維 吹 「ぼくの弱虫をなおすには」 を読んで	加 藤 珠 美 「みんなが知らない眠れる森の 美女」を読んで	村 瀬 友 菜 「アンネ・フランク」

「ぼくがこの本を読んだ理由は、本のタイトルの「ふしぎな」という部分が気になったからです。
内容は、ぶたくんが歩いていると「ふしぎなかさやさん」というお店がありました。このお店のかさはひらくとかさの絵の物が出てきます。このかさをどうやって作ったのかなあと思いました。もしこのかさがあったら、ポケモンのアンノーンを描いて開いて仲良くなりたいです。いっしょ

月形小学校2年
高畠 虹輝
たかばた こうき

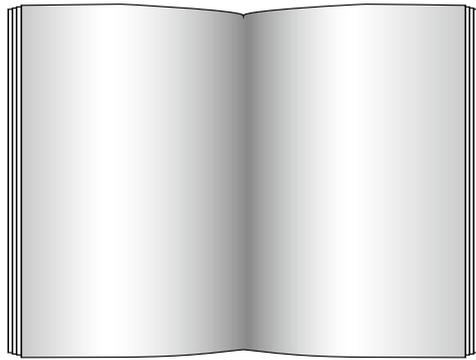
「ふしぎなかさやさん」
を読んで



にブロックで遊べたら楽しいなあと思います。

他に出したいのは虫のワラジムシです。百匹くらい大きなケースで飼って毎日ずっと観察してみたいです。

物語の最後は、狼がかさから出たブタをぬすみましたが、ブタくんがかさを閉めてブタが消えて狼はおどろいてました。ぼくは、どうしてブタくんをもってかなかったのかふしぎに思いました。



「体育がある」

を読んで

月形小学校3年

谷口 まなみ

私がこの本を読んだきつかけは、図書館においてあって、体育が好きなのかきらいなのか表紙を見ただけでは分からなかったけれど気になったからです。読んでみたら、体育がきらいな子の物語で、とび箱、さか上がり、水泳、開脚（後ろ回り）ができない主人公、「あこ」と、できない事はあここに練習させる「ママ」の話です。

私はとび箱でとべないのが五だんで、さか上がりはできなくて、水泳はプールのあさい所でしか泳げないし、まだ二十五メートル泳げません。開脚もできません。あこは体育が苦手だけど、私は体育が好きです。理由は、私は運動しんけいがわるいけど、今でもできないのがあっても、できるようになったらうれしいし、一年生のころは体育が苦手でしたが、二年生のころにたくさん練習してできるようになったら楽しい！と思ったからです。あこが体育が苦手なのは多分、できないからみんなに見られるのがはずかしくて自信がないんだと思います。私も一年生のころはそう

思っていました。今はたくさん練習して、とび箱五だんもさか上がりもプールの二十五メートルもできるようになりたい！と思っています。

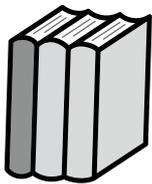
さい後にあこは、

「走ろう。走ってみよう。ママのためじゃなく、パパのためでもなく、自分のために。」と言ったので私も見習いたいです。理由は今まではおそらく、パパやママのために走ってたんだと思います。でも、あこは、

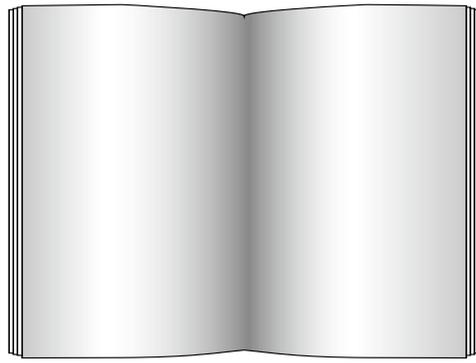
「わたしはだれかのために走ったんじゃないから。」と言ったので、あこは、体育で自分のために走れたんだと思つて、すてきなあとと思つたからです。あこは、いつも体育がきらいというより、ああできないって、あきらめてしまう自分がきらいだと書いてありましたが、

「きらいじゃない自分が、ちょっとだけいた。」

と言ったので、少しは自分



のことが好きになれたんじゃないかなあと思いました。さい後運動会だったので、あこが徒競走で練習のせいかを出せたらしいなあと思いました。



「銀河鉄道の夜」

を読んで

月形小学校4年

佐藤 陸

ぼくは、マンガの本を読むのは好きですが小説など文字ばかりの本は苦手です。

学校からの宿題で読書感想文が出た時、

「えー。今年もかあ。」という気持ちになりました。何の本にしようか迷いましたが、学校の図書室に行って本を探す

と、この「銀河鉄道の夜」という本を見つけました。列車が好きなのとおもしろそうだなと思ひ、決めました。この本には、ジョバンニというほんとと同じ小学生が出てきます。このジョバンニが、銀河鉄道に乗って、色んな体験をします。この本で気になったところは、野原を見わたしているところから汽車の音が聞こえてくるというところで

す。何で野原から音がするのかとふしぎに思いました。線路もないのに汽車が来て、主人公を乗せて旅をするところが一番おもしろいと思ひました。他には、一緒に旅をする親友のカムパネルラがとつぜんいなくなってしまう場面があつて、ぼくは悲しい気持ちになりました。汽車に乗って旅をするのは楽しいけど、旅のとちゅうで、とつぜん一人になつてしまうのは、とてもさびしい気持ちになります。主人公のジョバンニは本の中で泣いていて、この本を書いた宮沢賢治はひどい事をするなあと思つてしまいました。また、主人公はお父さんが猟に出かけたまま帰って来ない

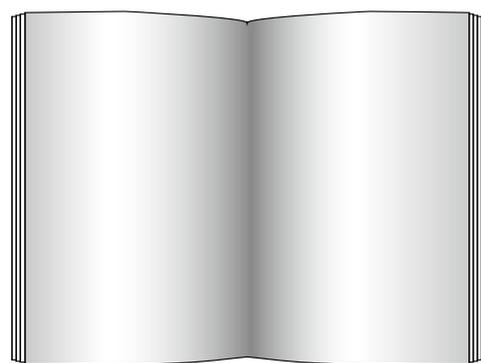
ことをクラスメートにからかわれてしまいます。ぼくがもし同じクラスだったら、からかったりしません。もし、からかっている人がいたら、先生にすぐ伝えると思います。からかわれてもお父さんやお母さんのために頑張る主人公をすごいなと思ったし、からかったりしないカムパネルラのようにになりたいと思いました。

もしこの本に出てくる銀河鉄道があったら、ちよつと乗ってみたいなと思いました。理由は、きつと景色がきれいだと思うし、星を近くで見たいからです。高い所は苦手なので、ちよつとだけ乗ってみたいです。話の最後には銀河鉄道からおりると、カムパネルラが、友人を助けようと川に落ちるところから始まります。そこで、ぼくは銀河鉄道はゆめの中の話だったんだと気づきました。カムパネルラは何かを伝えようとして銀河鉄道に乗って出て来たんだなと思います、とても心がいたくなりました。

この本を読んでぼくは楽しい事はずつとつづかないで終



わりがくる事と大切な人でも別れが来てしまうということを感じました。宮沢賢治さんは、作品を作っていて、すごい人だなと思いました。銀河鉄道はただの汽車ではなくて、人との出会いや別れを通して、友人や家族の大切さを教えてくれる本でした。友達には仲良く、家族には感しゃの気持ちを忘れず、これからもすこして行きたいと思いました。ぼくはカムパネルラみたいな優しい人になりたいです。また、出来るなら銀河鉄道に乗ってみたいなと思いました。



オーストラリアに行くために

月形小学校5年
石川源太

「キユウウウ」
と、カモノハシが鳴いた。

ぼくは、中休みに図書室に行ってかわいい絵の本があるな一と思つて、この本を読みました。この本は言葉を話すカモノハシと気のやさしいドイツの男の子がオーストラリアにいるお父さんに会うため、冒険をするという物語です。

ぼくははじめ、ドイツからオーストラリアに行くなんてむりなんじゃないかなと思

ました。なぜかと言うと子どもとカモノハシだけでもむずかしいのにそれに加えてドイツからオーストラリアまでなんて地球の3分の1ぐらいの遠さがあるし海をこえなきゃいけないからです。家にカモノハシをつれてきたなんてお母さんにばれてしまったら、「ばいきんだらけのものなんて家にもつてこないで。」と、言われてしまうから見つからないようにしないとだめだから見つかりそうでもないひやひやします。

もしぼくが、男の子ならカモノハシがしゃべれるなんて信じられないし、二人だけでオーストラリアに行くなんてとおすぎであきらめていたかもしれない。なぜならぼくは二人だけで行くなんてこわくて行く気にもならないからです。それでも男の子はカモノハシを信じて行こうと決めたのはすごいなと、ぼくは思います。

カモノハシの大きなものがピーナツバターなのはいいがだないと思ひました。バスでオーストラリアに行こうとしたら、ボートで行

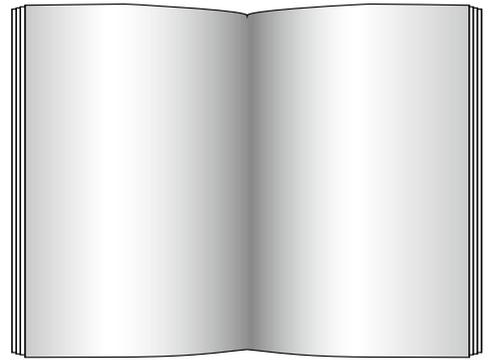
うとしたり飛行機で行こうとしたり行動力がすごいなと思ひました。なぜならまだぼくより年下なのに、行こうとしてお父さんに会うことができなからです。

飛行機にのる前や他の時にばれそうになったときにはばれなかつたのはすごいなと思ひました。

この本を読んで、だれだつて一人だけの時はさびしいけどだれでもとなりにいてくれる仲間がいたら勇気を出してすすんでいけるんだなと思ひました。目標にむかつてずるをしないで努力すればかならず成功するんだなと思ひました。

ぼくのしょうらいのゆめはまだ決まっていけないけどしょうらい、なりたいたいものがみつかつたときはそれにむかつて努力したいと思ひました。そして友達はこれから大切にしていきたいと思ひました。





「ぼくの弱虫を
なおすには」を読んで

月形小学校6年
高畠^{たかばた}
維吹^{いぶき}

この本の題名は、「ぼくの弱虫をなおすには」です。この本を本屋で見つけた時、弱虫をなおすってどういうことだろうと不思議に思い、この本を読むことにしました。自分も苦手なものやきらいなものがあるのでもし、もしかしたら自分の苦手なものも、この本を読むことでなおすことが出来るかもしれないと思いました。このお話はこわいものがたくさんある小学四年生の主人公ゲイブリエル、何よ

りこわいものは五年生に進級することで親友のフリークはこれに大反対し、進級するまでに弱虫をなおす努力をするお話です。

ぼくはこれを読んだ時におどろきました。苦手なものやこわいものに進んで立ち向かうなんて勇気があるなあと思ったからです。もし、ぼくがゲイブリエルだったら、こわいものに一つや二つ立ち向かうだけでそのこわいものいやな思い出やトラウマがよみがえってきて、すぐに弱気になってあきらめてしまうと思います。なので、ぼくがゲイブリエルのような弱虫だったとしたら自分の弱虫はなおせないのだろうと思いましたが、なので、こわいものを克服して弱虫をなおすことは、想像以上に難しいことなんだと感じました。

結果的にこわくなってしまい飛び込めなくなってしまうと思います。しかしゲイブリエルは、最初はこわがっていたけれど、親友のフリークが背中を押してくれたおかげで、ゲイブリエルは、飛ぶことが出来ました。

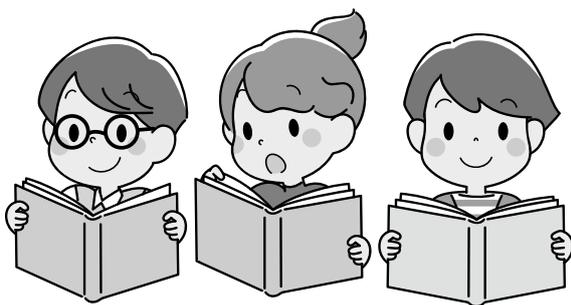
ぼくはこれを読んで、友達との存在は時に、勇気をあたえてくれるものなんだと、強く思いました。他に強く印象に残ったところは、黒人のフリークが肌の色を理由に差別されることです。ゲイブリエルのお父さんの言葉で「抑圧とはだれかを無理やりおさえつけることだ。たとえば、

だれかの自由をまわりがみとめなかつたら、その人は自分がなりたいものになれない。抑圧とは、他人の自由を制限すること。肌の色や、話す言葉、宗教を理由にね。」とありました。

ぼくはこの言葉を読んだ時、おかしいと思いました。なぜなら、人間は皆、平等じゃないといけないと思うからです。ですがフリークは大人から差別を受けていましたが、ゲイブリエルがいるから、一

緒に乗りこえて、たえることができたんだと、感じました。ゲイブリエルのような人が増えることで「抑圧」や「人種差別」という言葉がなくなると思います。

ぼくはこの本を読んで、改めて親友の大切さを知りました。一人では出来ないことも、二人で力を合わせて乗りこえられるような親友との信頼関係を、ぼくも築いていきたいと思いました。



次回は中高生の
感想文を紹介
します